



2

【学部長が語る】

「Charity for
your neighbours!」

3

【Campus News & Topics】

2009 年度大学祭「希望 ～未知への挑戦～」
保育学科 リカレントセミナー
第7回ボランティアウィーク
オープンキャンパス
1・2年生、保護者対象大学説明会

4

【Campus News & Topics】

全国ボランティアフェスティバル
四国インカレ
潜在有資格者等養成支援事業

5

【教員 ESSAY】

杜の都仙台での
二つの研修
保育学科 後藤 恭子

カタリナ ひろば

Vol.22 No.1
2009.11聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部www.catherine.ac.jp

6

【ゼミナールインタビュー】

山本 克司ゼミ



7

【ようこそ就職課へ】

みんな就職課へ
行ってみよう
就職課 廣嶋 守

7

【クラブ紹介】

フットサル部

社会福祉学部4年 藤田 純平



8

【夏炉冬扇】

私の余暇活動で
絹川 満

【図書館からおすすめ DVD】

大統領の理髪師
図書課 玉岡 兼治

「チャリティ・フォ・ ユア・ネイバーズ！」

人間健康福祉学部長 坂 原 明



本年4月に人間健康福祉学部の学部長を拝命致しました坂原明と申します。よろしくお願い致します。タイトルにあげました「チャリティ・フォ・ユア・ネイバーズ! (Charity for your neighbours!)」とは、本学で新しく掲げたスクール・モットーです。スクール・モットーとは、一般にその大学の教育の理念・目標を成文化したものをいいます。そして、これは単なる標語ではなく、学生の皆さんが本学において是非身につけていただきたい心の姿勢であり行動の規範といえます。

本学の建学の精神は、聖ドミニコ修道会の精神に基づいた「愛と真理」です。「愛」とは、神と隣人への愛を通した人間の完成を意味し、「真理」には神的真理を観想し、その実を他に伝えるという意味があります。本学は、その「愛と真理」の体現者としてシエナの聖女カタリナを守護者としていることから、彼女が生活信条としていた言葉「チャリティ・フォ・ユア・ネイバーズ」をスクール・モットーとしました。

「チャリティ・フォ・ユア・ネイバーズ!」は、日本語に訳しますと「全ての人を大事にしよう!」という意味になります。具体的には、日常の人との関わりの中で、個々の人をそれぞれ固有の価値を持ったかけがえのない存在として尊重し、その人の幸福に寄与することを行っていくというものです。しかし、これは何も特別なことをするというものではありません。例えば、困っている人の手助けをする。悩んでいる人の相談に乗る、落ち込んでいる人の傍らに寄り添う。あるいは、すべきこととすべきではないことを相手に伝えるといったこともそれには含まれるでしょう。

現代人は時間に追われる生活の中で余裕がなくなり、人と人との関係も希薄になりがちです。このような社会において人は必要な時に他人に頼ったり、困っている人を支えたりすることができにくくなっているようです。言い古された言葉ですが、人間は社会的な動物であり、1人で生きていくことはできません。誕生からその最期まで他者からの有形無形の助けを必要としています。「チャリティ・フォ・ユア・ネイバーズ」は、そのような日常的な援助の具現化を促進するための合言葉といえます。

私は、聖カタリナ大学で学ぶ皆さんに、この「チャリティ・フォ・ユア・ネイバーズ!」の精神を胸に日々の生活を送って頂きたいと考えています。そして、普段の生活の中で遭遇する様々な状況で自分がどのように行動するべきかということをこの精神に照らし合わせて考えていただきたいと思います。また、この精神を心において生活していくことは、学生の皆さん自身に幸福を呼び込むことになるとも考えます。人は自分が誰かの役に立っていると感じるとき、自分の存在価値を実感することができます。そして、それを実感する時、人は自尊心を感じると共に生きていく力が湧いてきます。

人は、人との関わりの中で幸せを感じます。周囲の人が幸福であればこそ自分も幸福を感じることができるのです。自分、そして周囲の人が幸せになるためには、互いが手を差し伸べあっていることが大切です。私たちそれぞれが「チャリティ・フォ・ユア・ネイバーズ!」の精神を持つことによって愛と感謝に満ちた時間をともに過ごすことができるようになると思います。



Campus News & Topics

2009年度大学祭「希望 ～未知への挑戦～」

【10月23日(金)～25日(日)】

2009年度大学祭「希望 ～未知への挑戦～」を、10月23日(金)から25日(日)にかけて開催しました。23日は大学際ミサと杉野幸三氏による講演『夢は叶う、奇跡は起きる』、24日・25日は一般公開として、バザーや展示、学生によるステージショー、かりゆし58のライブなど各種の催しを行いました。25日(日)には大学祭の開催に合わせ、パイプオルガン演奏会を開催いたしました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。ご協力していただいた皆様にも感謝いたします。



【主な内容】

- かりゆし58 ライブ
- パイプオルガン演奏会
- 展示・バザー
- ステージショー
- フォークソング部
- 「St. CATHERINE ROCK FESTIVAL」
- お化け屋敷
- 保育学科レクリエーション
- 附属幼稚園 母の会バザー

保育学科 リカレントセミナー

【8月20日(木)】

聖カタリナ大学短期大学部では、幼稚園、保育所、施設などに勤務されている方や希望者を対象に、恒例のリカレントセミナーを開催しました。音楽、美術、体育など開講講座は4講座で、愛媛県内から延べ100名を超える方々に参加していただきました。音楽を用いたコミュニケーション方法、パステルクレヨンを使った「お絵描き」体験、跳び箱やマットを使った楽しい運動遊びなど、どの講座も現場で活かせる質の高い実践的な内容でした。

講座内容(担当)	
講座A	保育における音楽療法Ⅲ (藤井 澄子)
講座B	楽しく たのしく 絵を描こう (松井 寿美子)
講座C	やさしいピアノ伴奏法 (五十嵐 雅子)
講座D	4・5歳児の体育指導 (大上 紋子)



リカレント(recurrent)とは、「回帰・循環する」という意味で、リカレント教育とは、社会人が職業上の新たな知識・技術を習得するために、また日常生活において教養や人間性を高めるために、生涯に渡り繰り返し学習することを意味します。

第7回ボランティアウィーク

【6月29日(月)～7月4日(土)】

聖カタリナ大学学生ボランティアセンターでは、毎年恒例のボランティアウィークの一環として、コンサートやバザーなどチャリティイベントを開催。7月4日(土)の一般公開では、775名の方々にご来場していただきました。「笑顔でつながるころの輪～CHARITY FOR YOUR NEIGHBOURS～」をテーマに、施設・作業所やサークルなどが参加し、楽しいチャリティイベントになりました。

期間中に募金活動を行った結果、募金金額は162,948円になりました。この募金活動による収益金は、AMDA(国際医療ボランティア)、Child Fund Japan(アジアの子供を支援)、あしなが育成会(親を亡くした子供を支援)の3団体へ寄附させていただきました。



オープンキャンパス

本年度のオープンキャンパスは、6月13日(土)、7月18日(土)、8月22日(土)、9月26日(土)の計4回行われました。今年は天候にも恵まれ、県内外の遠方からもたくさんの参加者が来学し、保護者を含め延べ567名の参加をいただきました。開催にあたっては、在学生に学生スタッフとして協力していただきました。ありがとうございました。



【主な内容】

- 学科、専攻による模擬授業
- 体験コーナー
- 個別相談コーナー
- クラブ・サークル紹介
- キャンパスツアー
- 学食体験
- 子育て支援ひろば(ポケット)見学

1・2年生、保護者対象大学説明会

聖カタリナ大学・同短期大学部では、高校1・2年生、保護者対象の大学説明会を開催します。本学の教育や特徴をはじめ、学科・専攻の内容、入試、学費や奨学生制度、就職実績などを詳しくご説明させていただきます。模擬授業、施設見学、学食体験などキャンパスライフを体感できるプログラムや、質問や相談に対する個別相談コーナーもあります。遠方からでも参加しやすいように、東予・南予・松山から無料送迎バスを運行する予定です。この機会にぜひご参加ください。



【開催日】12月13日(日) 【開催時間】11:00～14:45
【お申し込み・お問い合わせ】
入試広報課 0120-24-4424(フリーダイヤル)

全国ボランティアフェスティバル

【9月26日・27日】

9月26日(土)・27日(日)、愛媛県松山市で「第18回全国ボランティアフェスティバル」が開催されました。このフェスティバルは、これまでのボランティア・市民活動を振り返りながら、誰もが安心・安全に暮らせる社会づくりを実現するために、これからの活動について理解を深め合うことを目的としています。

分科会19「食のユニバーサルデザイン」には聖カタリナ大学UD研究会アイクローバーのメンバーが参加しました。第一部はこれまでのUD研究会の活動を紹介し、第二部のワークショップでは、地元愛媛の人が親しんできた食文化は誰もが安心・安全に楽しめるものかを、ユニバーサルデザインの視点で考えました。全国から来た参加者と一緒に食に関するキーワードを洗い出し、日常の生活の中で感じる食についての課題とその解決方法を討議しました。



分科会19「食のユニバーサルデザイン」	
会 場	ひめぎんホール 第4・5会議室
出演者	コーディネーター 佐野 勝久(愛媛：Sデザインスタジオ代表) アドバイザー 長谷部 治(神戸：長田区社協職員) パネリスト 藤田 雅彦(愛媛：愛媛県産業技術研究所主任研究員) 岩満 賢次(愛媛：聖カタリナ大学教員)

分科会10「若い世代の気づき」には、聖カタリナ大学ボランティアセンターのメンバーが参加しました。第一部は、愛媛県発祥のVYS活動について、第二部は日本各地の大学ボランティアセンターが集まって、これからの大学ボランティアセンターのあり方について討議しました。本学は、学生ボランティアセンター長の大西由佳理さんが報告しました。

分科会10「若い世代の気づき」	
会 場	愛媛大学
出演者	コーディネーター 赤澤 清孝(京都：ユースビジョン代表) パネリスト 糸井 淳子(横浜：明治学院大学ボランティアセンター・横浜コーディネーター) 藤沢 真理子(愛媛：聖カタリナ大学教員) 大西 由佳理(愛媛：聖カタリナ大学学生) 鶴川 健(京都：龍谷大学生)

四国インカレ

平成21年度四国インカレが徳島県で開催されました。本学からも多数の選手が競技に参加し、剣道部は女子団体が準優勝。空手道(演舞個人型)では島崎和典さん(社会福祉学科3年)が2位になるなど、各競技会場で熱戦を繰り広げました。

【主な競技成績】

- 剣道部女子団体 準優勝
- 空手道男子個人 演舞2位
- バスケットボール女子 3位



潜在有資格者等養成支援事業

この事業の目的は、資格を有しながら福祉・介護サービスに従事していない「潜在有資格者」の活躍の場を広げるとともに、退職者や地域住民の方々が福祉分野に興味を持てるような研修等を行います。また、福祉施設や事業の職員の方々のキャリアアップを支援する研修を行います。(この事業は愛媛県の受託事業で、研修は無料で受講できます。)

研修A：潜在的有資格者再就職支援研修 (潜在的な介護福祉士等の再就職を支援する研修)

3日間 1回開講/定員50名 受講料：無料
申し込み期間：平成22年3月1日(月)～3月8日(月)
※受講対象者：主に、社会福祉士・介護福祉士・ヘルパーの資格をお持ちで施設に従事していない方

平成22年3月12日(金) 10:00～16:00
・介護予防の動向と求められる介護福祉士像(講義・演習)
・これからの認知症ケアについて(講義)
・質疑応答および意見交換
平成22年3月13日(土) 10:00～16:00
・介護予防(講義)
・介護課程の展開と指導方法(講義・演習)
平成22年3月14日(日) 10:00～16:00
・『介護技術』から『生活支援技術』へさらに『こころとからだのしくみ』との関連(講義・演習)

研修C：キャリアアップ支援研修 (福祉の仕事に従事している人々のキャリアアップを支援する研修)

腰痛を起こさないための助動テクニック
北欧式トランスファー実技講習会
腰痛予防のための介護・ノーリフトへの取り組み
2日間 1回開講/定員40名 受講料：無料
申し込み期間：平成21年11月9日(月)～11月16日(月)
※受講対象者：現在、施設に従事しており、さらにキャリアアップを考えている方

平成21年11月23日(月)
・デンマークにおける高齢者介護と介護者の労働環境について
・北欧式トランスファーテクニックの基本的な考え方について
・北欧式トランスファーテクニックについて(実技演習)
平成21年11月29日(日)
・ノーリフトポリシーの紹介と今後の介護現状と課題(講演)
・福祉用具を使った腰痛対策への取り組み(演習)

《申し込み方法》

FAXのみ受付けます。定員になり次第締め切ります。

▼FAXでの申し込み方法(下記の内容を必ずご記入ください)

- 研修の種別(例：研修A,C)
※研修の前に「潜在」と記入してください。
- 郵便番号・住所
- 氏名(ふりがな)
- 電話番号、FAXのある方はFAX番号
(必ず連絡のつく電話番号などを記入してください)

※受付が完了しましたら、研修案内をお送りします。

申し込み先：聖カタリナ大学 FAX 089-993-0900

杜の都仙台での二つの研修

保育学科 後藤 恭子

今年の夏休みには今までにない体験をさせていただきました。といいますのは、続けて与った二つの研修での内容のことと、その場所が学生時代を過ごした杜の都仙台であったということで不思議なものを感じたのです。仙台の町は、昔とは違い人々が多く、大きく広く繁栄しており、私はまるで浦島太郎になったようでした。確かに何十年も時代が経っているのですから当然のことでしょう。若いときに、あのことをしたいと心のうちに秘めていたことが、現実にはどのようなになっているかを考えますと、神様は、私のまったく自己中心的な希望をかなえてくださっていました。そして今年のこの機会を与えてくださった神様の大きな慈しみを讃えずにはられません。

希望とは、初めての学校生活で出会った小学1年生時の担任のような先生になりたいと思ったことと、高校時代に知った修道生活を送りたいと思ったことでした。このことを思い起こさせるかのように、フィナーレに近づいた教員生活へのプレゼントとして、懐かしい杜の都で二つの研修が与えられたのです。写真のように各大学もそれぞれ個性豊かに私たちを迎えてくれました。一つは仙台白百合女子大学・白百合学園での日本カトリック教育学会、もう一つは東北福祉大学での全国保育士養成協議会セミナーでした。

前者では森司教の基調講演が印象的でした。今回の大会テーマ「カトリック教育における『連携』の可能性を探る—アイデンティティーの再確認を求めて—」の講演はカトリック学校教育の危機感に迫られている多くの先生方にとっては、注目の的となるものでした。個人の意見として聴いてほしいと願われた真髄を突いた視点に、先生方はさすがと納得されたようでした。今日の複雑困難な社会状況であるからこそ、カトリック教育に関わるすべての人々、教職員、保護者が一致し協力し連帯していくこと、またそのために人々を養成



していくことの必要が説かれ、キリスト教の源泉（イエス・キリスト）に帰るよい機会とすることが論されました。私たちの大学でも学長・理事長はじめ教職員みなとの協力のもと、建学の精神「愛と真理 Amor et Veritas」や教育の理念であるキリスト教的人間観、「誠実、高邁、奉仕」やモットー Charity for Your Neighboursを掲げて一致していることを思い起こし、慰められました。

後者では保育者の養成として今必要とされていることが中心でした。保育者の資質や専門性として今まで考えられていた専門的知識や技能はもちろん、それ以上のものが求められているということです。つまり状況判断や柔軟な思考や対応、子どもや人の気持を読み取る能力、思いやりなど、さらにそれらを裏付ける倫理観さえ強調されました。気づき、疑問、ジレンマ、興味、共感、さまざまな人間関係を通して、ともに育ち合い学び合う学びの専門家となることが保育者に求められるということです。それらの大切さはそこで言及されたOECD（経済協力開発機構）でなくともすでに早くから勧められてきたことでしょう。また脳科学者からの提案（親子の毎日10分間の一对一のふれ合い遊びやその中でほめることや我慢の訓練）が親にも子にもすぐれた効果をあらわしているという実践報告にあつては、確かに愛が子育て（人格形成）のもっともよい滋養分であるとの実証だ！という感激に浸ってしまいました。

このようなわけで今回の二つの研修は私個人にとって深いつながりがあり、豊かな実りを味わうものとなりました。この機会を与えてくださった方々に心から感謝するとともに、これからは自己の望みではなく、神様の望みを果たしていけるよう残された人生を歩みたいと思っています。

神に感謝！！



ゼミナール インタビュー

山本 克司 ゼミ



社会福祉士国家試験に関する全般的な内容を扱っています。

特に、基本的人権と法律については重点的に扱っています。また、基本的人権保障を社会福祉の現場で使いこなせる能力を身につけるため、社会福祉援助技術についても勉強しています。平成21年度からは、社会福祉士養成カリキュラムが変更になったので、権利擁護と成年後見についても重点的に扱うようにしています。

ゼミの特徴を教えてください。

社会福祉士国家試験合格をみんなで目指すことを特徴としています。ゼミの雰囲気は自由闊達ですが、将来、自分の力で立ち立てることができる人物を育てることを目的としていますから、社会福祉士の資格取得には特に力を入れています。古来から、「子は親の背を見て育つ」と言います。教員自ら、資格の重要性を学生に理解してもらうため、私自身3年前にNHK学園社会福祉士養成課程に入学し、夏休みに施設実習を経て、社会福祉士を取得しました。このように、資格取得と経済的に自立できる生活の確立を目指すことがゼミの特色です。

ゼミのスタイルを教えてください。

ゼミは、基本的に社会福祉士国家試験の出題問題をベースに、ソクラテス方式で進めます。ソクラテス方式とは、教員が問題を提示し、学生に考えさせながら、答えを導く方式です。自分の頭で考え、人前で発表するという方式を重視しています。しかし、基本的な知識がなければプレゼンテーションができないので、ときには教員の側から教科書をベースに講義することもあります。問題意識をもってもらうためにディスカッションをすることも重視しています。

今後の活動としてやっていきたいことは？

将来、社会福祉士として仕事をする上で、現在、施設や社会福祉協議会、あるいは行政で働いている人との人的なつながりは不可欠です。そこで、社会福祉士として、社会の第一線で頑張っている人々をゲストとして迎えたり、社会福祉士会の各種イベントに学生を積極的に参加させたいと思っています。

山本ゼミはこんなゼミ

山本先生は、堅苦しいイメージが付きまとう法律について、分かりやすく飽きないように、所々に冗談や逸話、過去の経験を盛り込みながら授業を行ってくれます。基礎的な法律の知識だけしか持っていないなくても、楽しく知識を深めていくことができます。

ゼミには山本先生含めて個性的なメンバーが多く、ユーモアを絡めたユニークな学習方法で法学を学ぶことができます。社会福祉士の国家試験対策を踏まえており、効果的に学習したい人におすすめのゼミです。

社会福祉学部3年 兵頭 克彦

ゼミ生にどんなことを学んでもらいたいですか？

まず、社会福祉に関する一般的な知識は正確に身につけて欲しいと思います。その手段として、社会福祉士国家試験はとても重要な意義があります。しかし、単なる受験勉強だけでは人間的な成長がありません。そこで、積極的に施設のボランティア活動や社会の様々なボランティア活動あるいは、社会福祉士会の活動などに参加して、社会の中での社会福祉の重要性を学んで欲しいと思います。また、基本的人権について、歴史や内容などを正確に身につけて欲しいと思います。

どのような学生にゼミに入ってもらいたいですか？

私のゼミは、社会福祉士として社会で活躍する人材の育成を目的としていますから、「社会福祉士」になるという強い目的意識をもった学生に来て欲しいと思います。この勉強は、ときとして辛いこともあります。色々な誘惑と闘わなければならないこともあります。そんなとき、強い目的意識でこれらの問題を乗り切れる「頑張り屋さん」に来て欲しいと思います。

ゼミ生にメッセージをお願いします。

みなさんの人生は楽しいことばかりではありません。常に苦しみとの戦いです。苦しみを避けて、楽をすれば人間的な成長はありません。社会福祉士の国家試験は楽ではありません。現実から逃避したいこともあるでしょう。しかし、これを乗り越えれば、みなさんは今よりもずっと逞しくなるはずです。そして、次にもっと困難な問題に直面したとき、「あの時頑張ったのだから今度も頑張れる」という強い力を身につけることができます。私は、ゼミ生のみなさんの傍にいつまでもいることはできません。この短い2年間の勉強を通して、みなさんの自身の生きる力を強くする「エンパワメント」養成に少しでも役立ちたいと思っています。頑張ってください。

克司先生の授業はゼミのみならず、全ての授業で眠くなることはありません。なぜなら、楽しく、分かりやすく、そして学生を受容してくださっているからです。

授業内容は国家試験対策ですが、専門の法学のみならず、公的扶助までも教えてもらえますのでお得です。難しい法学をフローチャートや表で示し、実例も過去の自らの体験を面白おかしく尾ひれを付けて(?)話してくださいますので、想像しながら楽しく覚えていけます。そして、先生ご自身が第20回の国家試験に(高得点で)合格され、社会福祉士の資格を獲得されていますので、学習方法も教えてくださる最高の先生です。

社会福祉学部4年 平岡 里望

ようこそ 就職課へ



はすでに就職試験は最盛期となっており、4、5月には学内公務員試験の説明会を毎年開催しています。

福祉職の就職試験は7月頃から始まり夏休み明けには一斉に動きだします。そのため5月に福祉就職ガイダンス、福祉職面接マナーセミナーを開講します。また今年7月には初めて学

皆さん、就職課を知っていますか。卒業年次を迎えた皆さんは勿論、下級生の皆さんにもガイダンスや基礎演習等で一度はお会いしたことがあると思います。就職課は就職のお世話がしごとですが、就職活動時だけでなく、活動に入るまでの過程を重視しています。大学を例にとると1年生には基礎演習Ⅰにおいて「就職する」ことについて基本的なことを話しています。特に「自己理解」と「職業理解」について2年生までには完了するよう伝えています。2年生では1年生時の職務適性テストに加えて、VPI職業興味検査を実施し、「自己理解」「職業理解」の一助となるよう工夫していますが、その結果がなかなか活かされていないようです。是非1、2年生の時から就職課を覗き、履歴書やエントリーシートの書き方を勉強しに来てください。

さて、本格的な就職支援活動は3年生の4月のスタートアップセミナーから始まります。5月には職業適性検査を実施し、7月にその検査結果の適性診断から、自己PR方法を、さらに11月にはエントリーシートや履歴書の書き方を実施しています。その間6月に就職サイトの案内とその活用の仕方、9月には業種・職種理解と企業研究を実施しています。10月に就職情報サイトの本格的オープンにあわせ各就職情報サイトの特徴と活用について詳しく解説します。11月頃から就職試験が本番となるため筆記試験対策講座を開講し、傾向と対策を準備します。12月には求職登録票を配布し記入方法と学内手続きを詳しく説明します。また同時期に内定を得ている4年生や企業の採用担当者を迎えて就活に向けてのアドバイス等話をしています。1月にはグループディスカッション講座も開講しています。通常各企業の会社説明会は単独または合同で12月頃から開始されます。4年生の4月から

内福祉就職相談会を開催し、県内外から40施設の参加を頂きました。初めての大きな学内就職相談会ではありましたが、施設側、学生側からも高評価を受け、特に学生側の福祉施設への理解が今まで以上に増し、福祉専門職への就職希望者が増えています。

他方、短期大学部では授業の過密や実習のためガイダンスの時間が取りにくく、大学ほどはガイダンスを開催していませんが、少人数ということもあり教職員の連携を密にし、個別面談に重点を置いています。各人の個性と就職先のカラーとを照らし合わせ、ベスト・マッチングな就職を目指しています。また短大では、毎年卒業生の就職先に教職員でお礼訪問し、卒業生の状況を見回っています。おかげで就職先からは卒業後も面倒見のよい大学として見られています。

就職課は現在4人のメンバーで対応しており、全ての学年の来課を待っています。とりあえず“みんな就職課へ行ってみよう”

就職課 廣嶋 守

【2009年度後学期の主な就職ガイダンス】

大学	・自分の魅力を十分に伝えるエントリーシートとは？
	・筆記試験の現状の説明とその対策
	・グループディスカッションの目的とその対策
	・日経新聞の読み方の解説
短大	・好感もたれる話し方
	・就活スタートアップセミナー
	・エントリーシート・履歴書の書き方
	・社会人マナーセミナー

その他、対策講座として、社会福祉士国家試験対策講座、精神保健福祉士国家試験対策講座、SPI・公務員試験対策講座、基礎簿記講座等も開講しています。

クラブ紹介 フットサル部



私たちフットサル部は、部員14名とマネージャー3名の計17名で、水曜日は18時～21時、土曜日は9時～12時の週2回、記念体育館で活動しています。

部員同士、また部員とマネージャー間の仲が良く、笑いがありながらも『やる時は、しっかりやる』をモットーに、全員が意識を高く持ち、練習に励んでいます。

年に2回ある大会で優勝を目指し、そのために遠征を取り入れ、また協会に登録している県リーグのチームと月に1回程、練習試合も取り入れています。

フットサルはサッカーの規模が小さいスポーツと思われがちですが、実は全く違います。サッカーと異なると言っても過言ではありません。多少、サッカーを応用している部分もありますが、戦術、キックの質、スタミナの消耗具合、ルールもサッカーとは異なります。本学にはサッカー部がないため、部員のほとんどが大学から

フットサルを始め、現在では部員全員がフットサルの魅力に惹かれています。

練習方法としては自分達で考案したり、協会に登録しているチームの練習に参加しながら、そこで練習方法を学んでいます。

成績としては、ハッキリ言ってまだ良い結果を残すことができていませんが、まだまだこれからの部です。ゲーム内容や個人のレベ

ルも向上してきていると感じています。

現在は全日本フットサル選手権に向けて、部員全員がモチベーションを高く保ち、練習に励んでいます。

今後の活動としては、愛媛県フットサルリーグ加入を視野に入れ、練習試合や大会に参加することによりスキルアップを図ることはもちろんのこと、フットサルを通じ一人一人の人間形成を目指します。また、これまで築いてきた人との繋がりを大切に、今後の活動を共に協力しながら、部を活性化させたいと思っています。

最後になりましたが、顧問の玉井建三先生をはじめ、伝統を築いてくださった先輩方、いつも暖かく支えてくださる支援課の方々、フットサル部に協力して下さる他のチームの方々に、心から感謝を申し上げたいと思います。

今後とも、フットサル部をよろしくお願いいたします。

社会福祉学部4年 藤田 純平

夏炉冬扇 karo-tousen

私の余暇活動で 絹川 満

私には一年を通して欠かせない行事があります。春のお城祭りに武者行列に参加、これは5年前から毎年参加。7年前から参加している、障害者施設の夏祭りイベントのお手伝い、松山夏祭り野球拳踊り「ねたきりになら連」もその一つです。その他に毎週参加しているボランティアについて紹介いたします。

皆様は、一度は耳にした事があると思いますが、NPO「日本ガーディアンエンジェルス」松山支部です。この組織は、1979年ニューヨークの犯罪多発地域であったサウスブロンクスで総代表であるカーティス・スリワほか12人の若者達により、ガーディアンエンジェルスは誕生しました。“Dare to Care”をモットーに危険であった地下鉄のパトロール、ストリートで発生する様々な犯罪の防止に貢献し、さらに銃器による犯罪や麻薬撲滅のための活動に市民からも厚く信頼される存在となっています。

現在では、世界11カ国50都市でメンバーが犯罪防止に活動しています。日本では、1990年から活動に参加しニューヨーク本部長を5年間務めた小田啓二氏が阪神淡路大震災をきっかけに日本に帰国し、同年2月東京支部を設立、日本での活動を開始しました。現在は札幌から熊本まで24支部が活動しています。我が松山支部もその一つで、主な活動は、

1. 地域安全パトロール
2. 子供安全セミナー
3. インターネット安全教室 (NECと提携)
4. 学校校区安全パトロール・地域安全マップづくり
5. 防犯リーダーの養成講座
6. 働く女性の為の防犯セミナー
7. 安全に関する講演
8. 落書き消し
9. イベントサポート
10. 犯罪情報ボランティア・コール「ダイヤルV」

などがあります。

週末松山市内の繁華街を防犯パトロールをしています。赤いベレー帽と白いTシャツをトレードマークに活躍しています。ゲームセンターのオーナーの理解を得て店内のパトロールも行います。環境美化活動では、ゴミ拾いや違法広告物の撤去、救急活動では、泥酔者などの救護もします。路上に蟄集する若者とコミュニケーションを取ったり、喧嘩の仲裁も時折ありますがその時は、ケースバイケースで行政にまかせます。青色回転灯装着車両による郊外パトロールも行います。松山市内はもちろん伊予市、東温市にも出かけます。イベントサポートでは、椿さんを初め松山大学、愛媛大学の学園祭の構内パトロールを依頼されています。メンバーは、大学生、会社経営者、公務員、市会議員、サラリーマン、看護師等が四国唯一の支部で頑張っています。

モットー “Dare to Care” (見て見ぬ振りをしない) を合い言葉として毎週末9時から2時までパトロールをしています。見かけたら声を掛けて下さい。同時にメンバーも募集しています。



図書館から おすすめ DVD

大統領の理髪師 (116分)
イム・チャンサン監督
2004年 韓国映画



まだまだ近くて遠い国

図書課 玉岡 兼治

先日、本学の姉妹校である韓国のウソン大学校の学生のみなさんが短期留学に來られ本学に滞在しました。また、本学の学生のみなさんもウソン大学にきました。今、韓国のソウルへは飛行機で一時間半です。松山からは東京に行くより、ソウルのほうが近いのです。

みなさんは焼肉屋さんで「カルビ」という言葉を聞いたり、カルビを一人前と注文することもあるかと思います。カルビは、韓国語で「牛のろっ骨」の意味です。しかし、日本の焼肉屋で韓国語の正しい意味通りの「カルビ」の部位が出てくることはめったにありません。骨付きカルビなんて実は大変おかしい言葉なのです。骨付き、ではなく「ろっ骨」という骨の意味なのですから。

これだけ近い国で、「カルビ」だってみんなよく言っている言葉なのに、間違った解釈が平気で通っています。この言葉ひとつをみても、まだまだ日本と韓国は近いけれど遠い国のような気がしてならないのです。

図書館のAVコーナーには、韓国の人の日常を描いた作品も何点か入っています。地に足のついたごく普通の韓国の人の人生や哀歓が表現された作品です。それは地味ですが、ニュースや報道で知られる韓国の人とはまた違った一面を私たちにを見せてくれます。またご利用をお待ちしています。

学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.22 No.1

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 松山市北条660

TEL (089) 933-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp